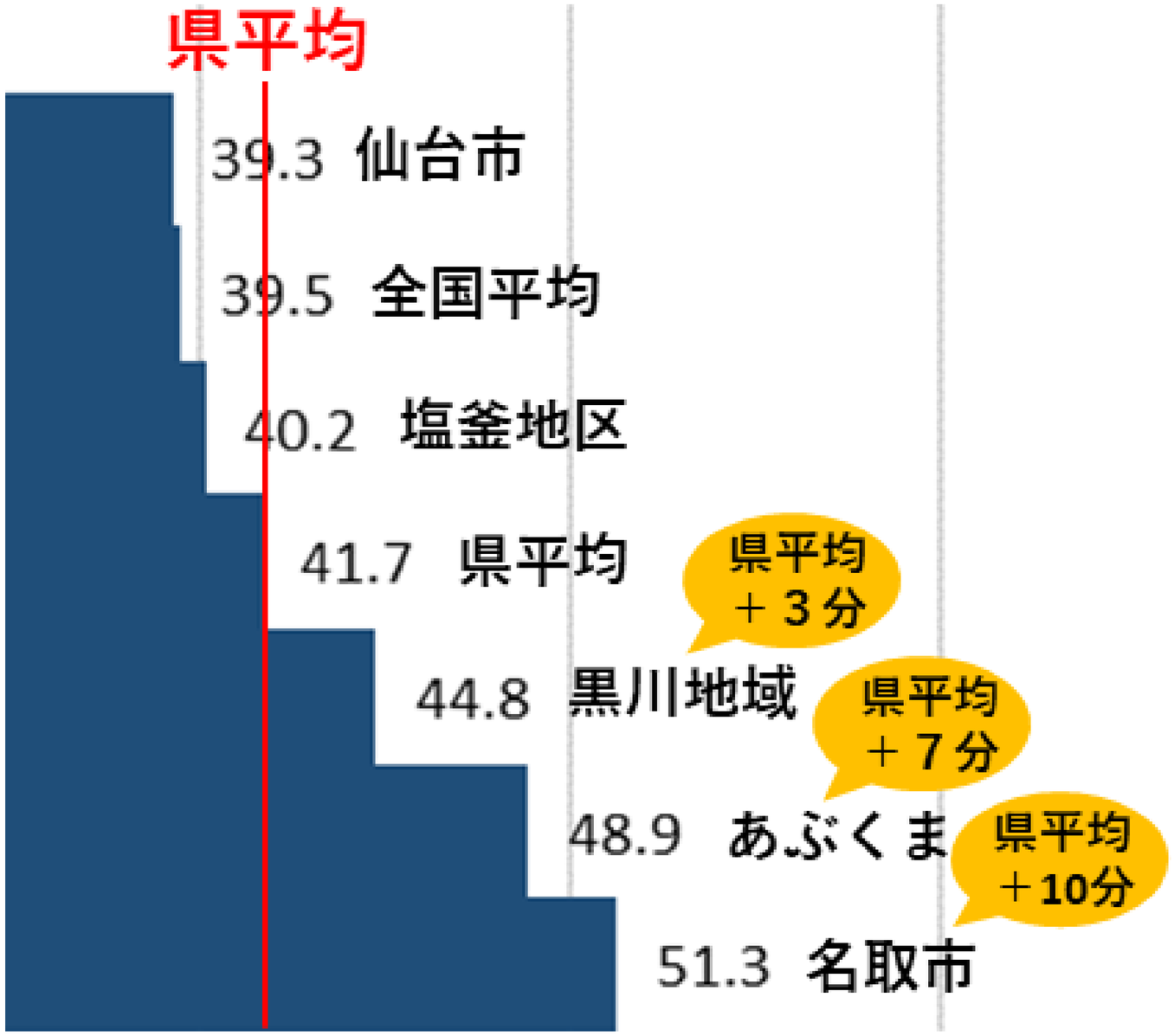
記者発表資料
令和３年１２月２０日
保健福祉部医療政策課
担当：日野、渡邉、及川
電話：022-211-2675

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）（知事説明資料）

※　本資料は知事定例記者会見において使用した説明資料です。

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

▲各消防本部（局）の搬送時間（分）　（令和元年）



仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

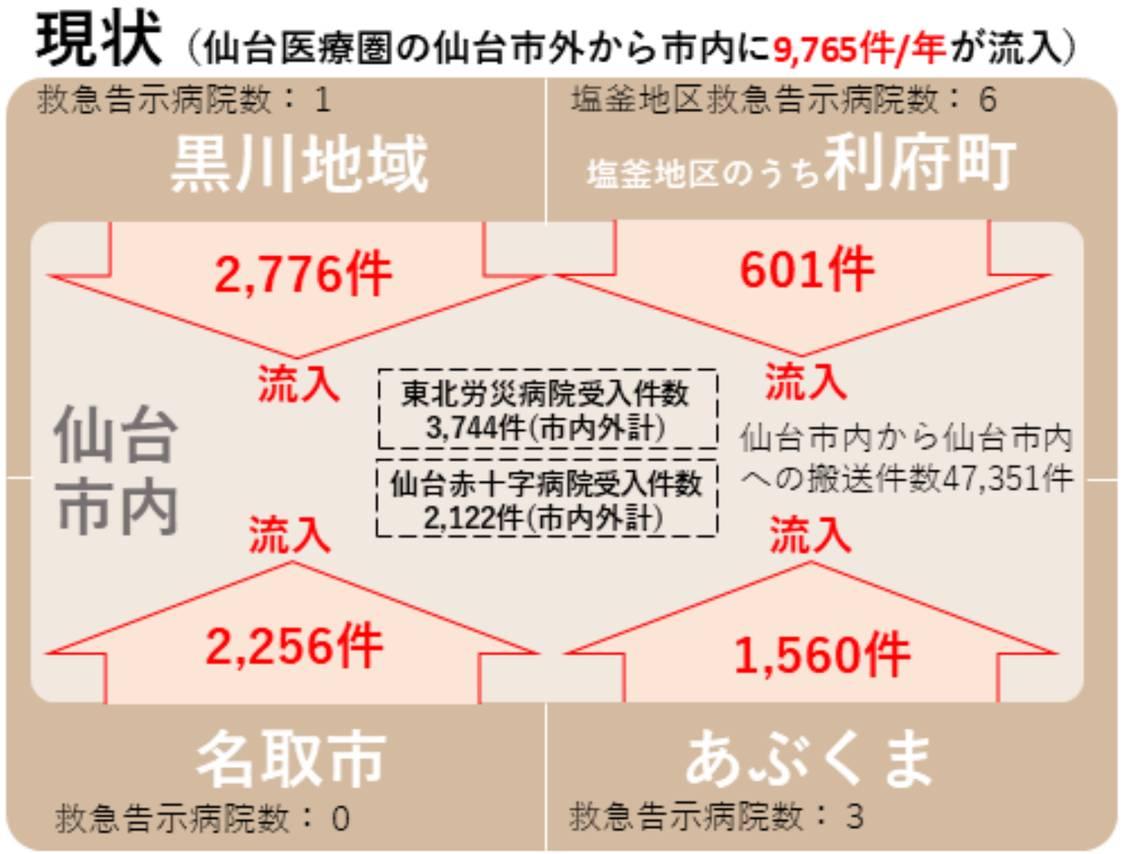
▲各消防本部（局）の救急搬送件数（令和元年）

	仙台市	黒川地域	名取市	あぶくま	塩釜地区	合計
各消防本部の搬送件数	47,971	3,624	3,169	3,890	9,018	67,672
仙台市内への搬送件数	47,351	2,776	2,256	1,560	3,173	57,116
仙台市内への搬送割合	98.7％	76.6％	71.2％	40.1％	35.2％	84.4％

出典：一般財団法人宮城県地域医療情報センター調査（令和元年）

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

▲仙台医療圏の仙台市内への救急搬送の流入（令和元年）



黒川＋名取＋あぶくま＋利府の搬送件数
＝7,193件
東北労災＋仙台日赤への搬送件数
＝5,866件

7,193件　＞5,866件

①２病院を名取・富谷に設置すれば、仙台市内の救急病院の負担は軽くなる。

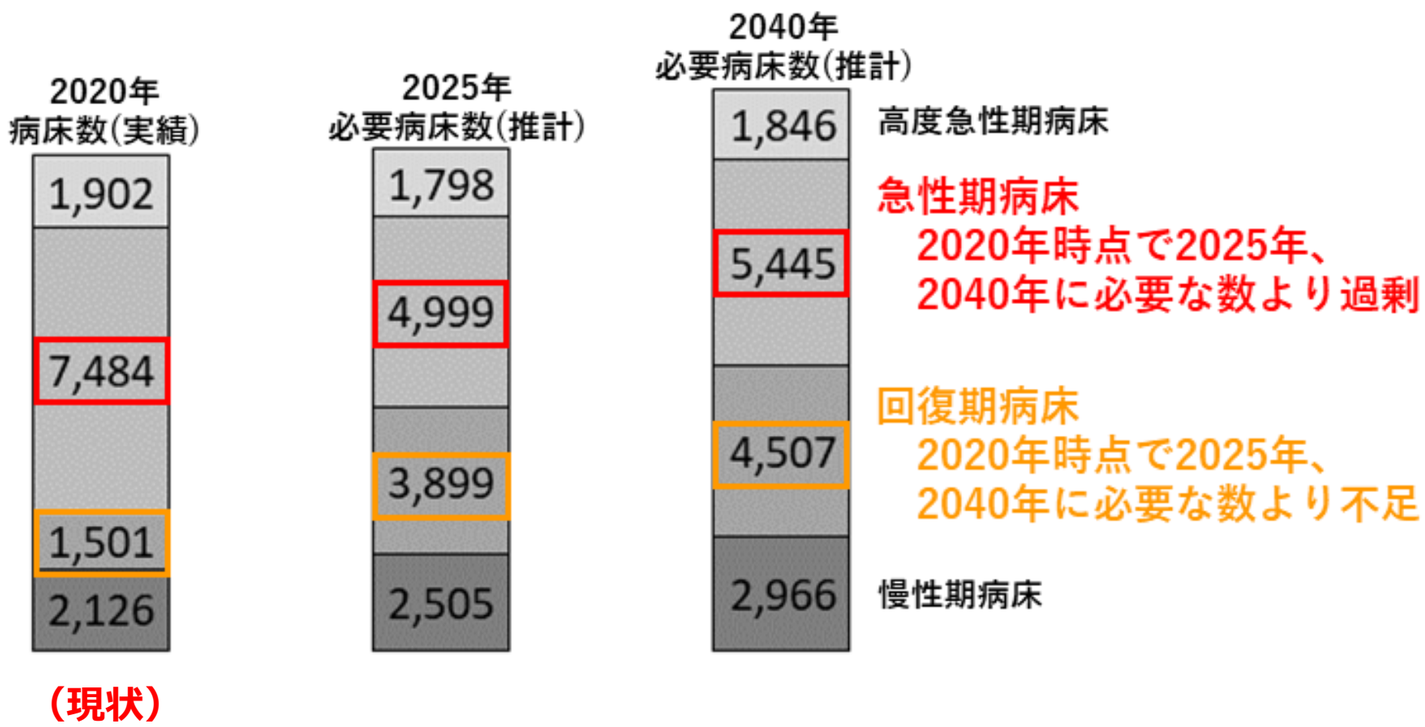
②仙台赤十字病院の近傍には仙台市立病院、東北労災病院の近傍には東北大学病院など複数の2次3次救急医療機関が立地しており、両病院の代替機能を果たすことができる。

③また、新病院の立地場所次第では、逆に仙台市内から仙台市外に救急搬送することができるようになる。

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

仙台医療圏の必要病床数の推計

○今後の高齢者の増加に伴い**リハビリなどを行う回復期病床が不足する**一方、**手術などを行う急性期病床は過剰**となっています。



○2040年までの必要病床数は、平成28年に策定した「宮城県地域医療構想」において推計しています。
○宮城県地域医療構想は、学識経験者（大学等）、医師会等で構成する地域医療構想策定懇話会（意見聴取）や医療審議会（諮問・答申）などを経て策定しています。

このデータは、高齢化に伴い見込まれる受療増及び救急搬送等の受入需要の伸びも反映

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

仙台市の令和元年の救急搬送者の65歳以上：65歳未満　＝

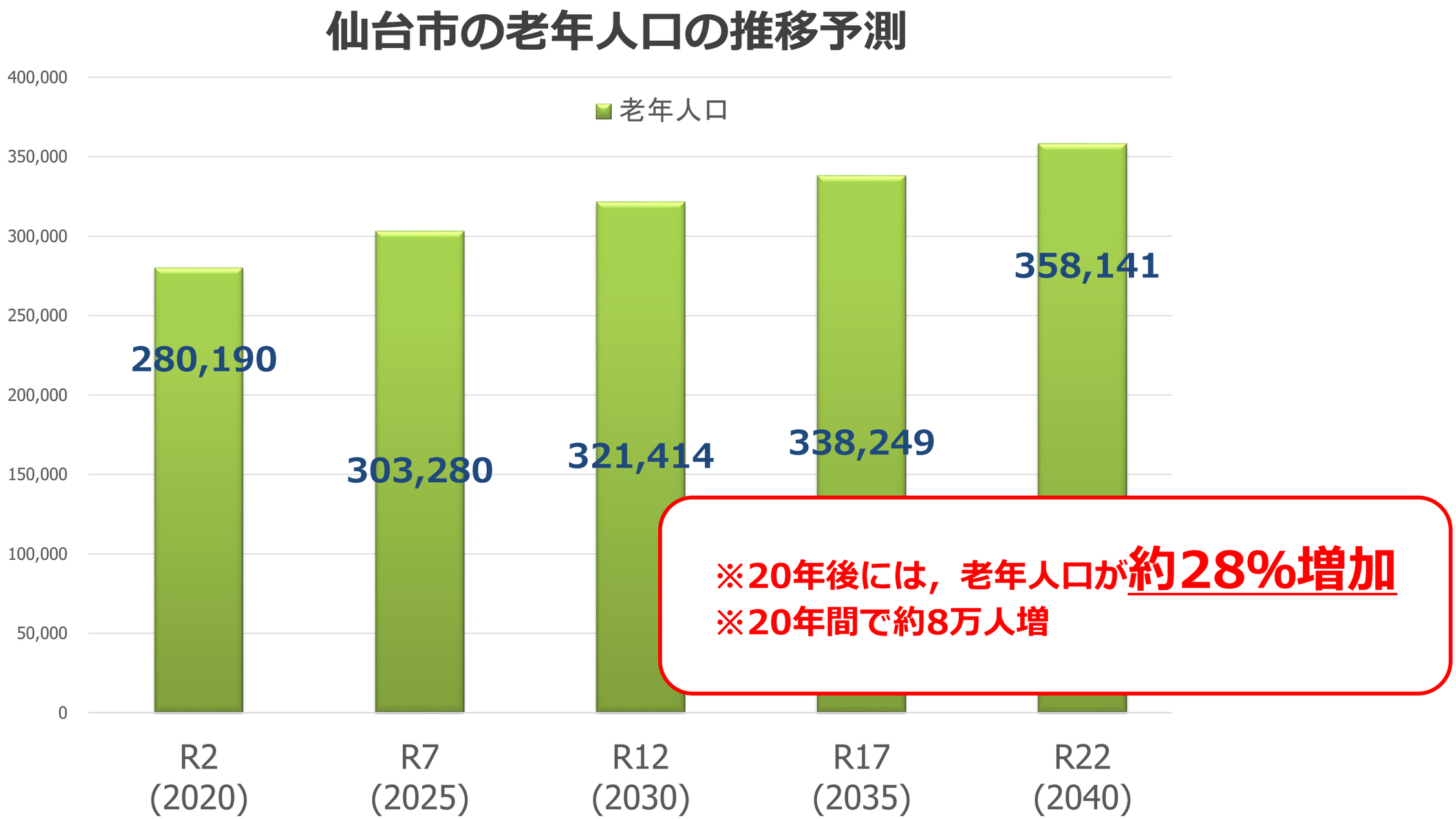
５５％（26,388件）：４５％（21,585件）※

（出典：仙台市消防概況　年齢区分別事故別搬送人員（仙台市消防局））

※合計47,973件となり、出典が異なるため2枚目のスライドの件数とは一致しない

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

▲１つのケーススタディ



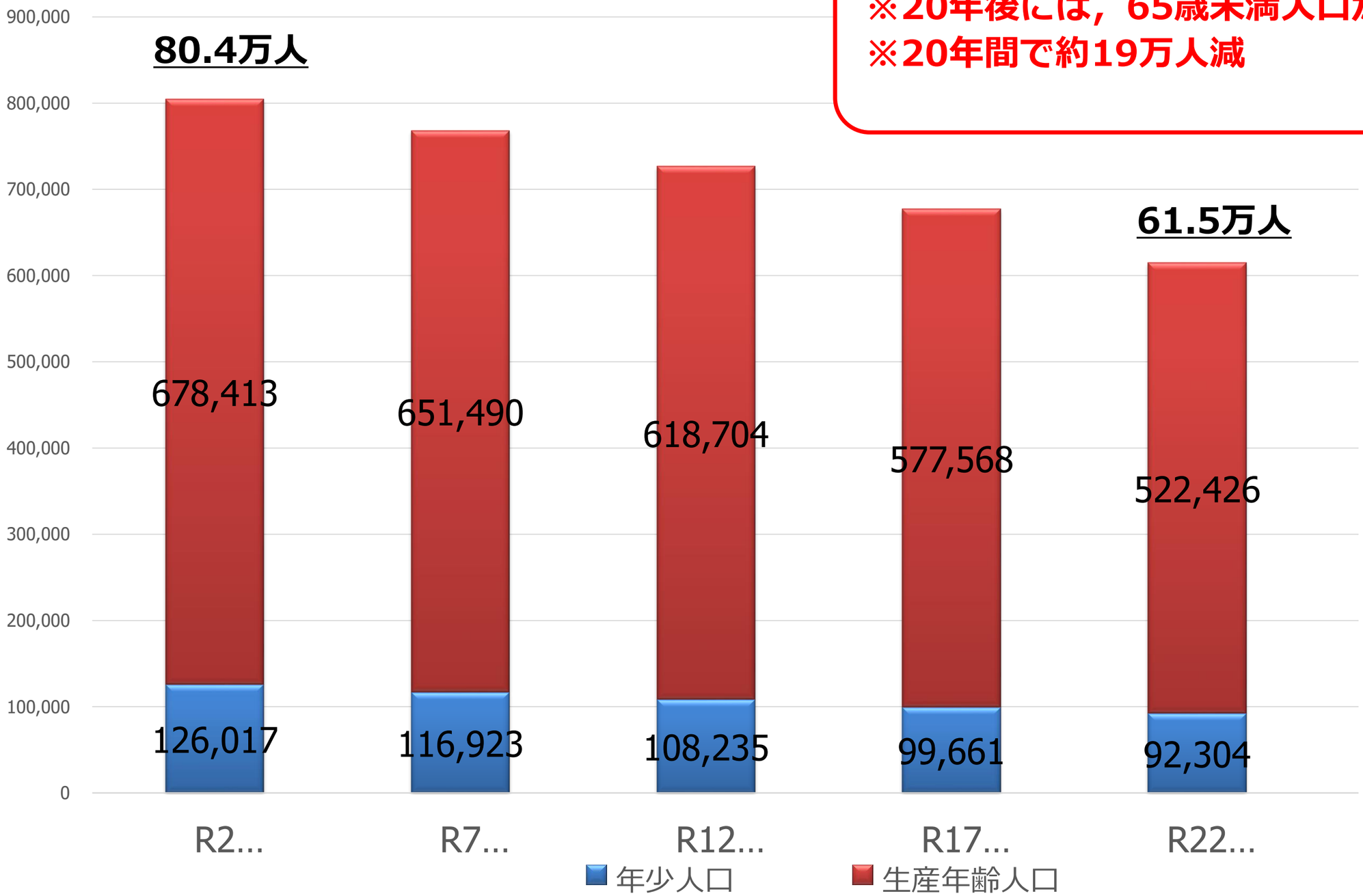
出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年３月推計）」
（国立社会保障・人口問題研究所）

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

▲１つのケーススタディ

仙台市の65歳未満人口の推移予測

※20年後には，65歳未満人口が**約24%減少**
※20年間で約19万人減



出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年３月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

１　救急搬送患者のうち、実際に入院治療を必要とする患者は６５％程度

２　現在の2次救急の病床利用率は６０～８０％台

仙台医療圏の４病院の統合・合築に係る宮城県の考え方（ポイント）

病院経営の視点

舟山院長（仙台赤十字病院）
「病院をつぶさぬための統合（11／20　朝日新聞）」

・一番言いたいのは病院をつぶしたくないということ
・仙台市の場合だと病院が集まり経営が苦しい
・2014年に仙台市立病院が太白区に移ってきてから患者も減った

徳村院長（東北労災病院）
「医療の質向上　最優先（12/12　河北新報）」

・規模が大きくなれば、医療のレベルが上がり、安全な医療が提供できる
・病院と診療所の機能分化が厳格化される中、距離は遠くてもレベルの高い安全な医療が提供できる病院があれば、患者は安心できる

急性期を担う病院が仙台市内に集中することにより競合が生じ、深刻な経営課題を抱えていることが問題

↓

病院の適正配置と回復期病床も含めた病床数の調整が必要